

第7章

不定詞

For further information ... サンプルページ

- ・ p.161, p.164, p.187 の詳しい語法文法情報です
- ・ アミカケは紙面にのっている部分です
- ・ より深い語法文法学習にご活用ください

1 名詞的用法

3 目的語として



コーパス 目的語として不定詞をとる動詞

決定・決心

decide to do ...することに決める **choose to do** ...することに決める

予定・計画

plan to do ...する予定である, ...するつもりだ **promise to do** ...すると約束する
learn to do ...の仕方を覚える, ...する(できる)ようになる

希望・願望・必要

hope to do ...することを望む **like to do** ...したい, ...することを好む
need to do ...する必要がある **want to do** ...したいと思う
wish to do ...したいと思う

原理

「決定」「予定」「希望・必要」など〈未来志向〉的な意味を持つものが多い。

注意しよう! 形式目的語 it は省略不可!

形式目的語を使わないで、次のようには言えない。

× I found to reserve a flight on the Internet easy.

これに対し、動名詞では次のように2つの言い方が可能。

I found **reserving** a flight on the Internet easy.

I found it easy **reserving** a flight on the Internet.

不定詞句は前置詞の目的語にはなれないので、
前置詞の後では動名詞を使う。

You can move the cursor **by using** the mouse.

× You can move the cursor by to use the mouse.

マウスを使ってカーソルを移動できるよ。



2 形容詞的用法

2 意味上の目的語としての名詞を修飾



類例 a place to live **in** 住む（ことのできる）場所
a knife to cut paper **with** 紙を切る（ことのできる）ナイフ
music to listen **to** 聞くべき音楽

【!】 「手段」の **with**, 「場所」の **in**, **on** などの前置詞は省略されることもある。
省略されるのは修飾される名詞の性質によるもので、コミュニケーション上支障のない場合に限られる。

このように使うことのできる名詞は限られるので、迷ったら前置詞をつけておこう。

a place to live

a knife to cut paper など。

cf. Osaka is an ideal place to start a business.

大阪は商売を始めるには理想的なところだ。

英語の原理 不定詞の意味上の目的語と主語

「修理すべきコンピュータが非常にたくさんある」と言うときは、次の2通りの言い方ができるが、1.の方がよく使われる。

1. There are so many computers **to repair**.

〔computers が不定詞の意味上の目的語〕

2. There are so many computers **to be repaired**.

〔computers が不定詞の意味上の主語〕



原理 1. は「…すべき」という〈義務〉の意味。

There are so many computers for us to repair. の意味で使われ、

→ There are so many computers which we should repair. と書き換えられる。

2. の場合はそれに加えて「…できる」という〈能力〉や〈可能〉の意味で解釈することもできる。

→ There are so many computers which can be repaired. と書き換えられる。

3 〈SVO + 動詞の原形〉 構文

2 使役動詞

49 He **made** *her* **wait** in the café for an hour.

彼は彼女をカフェで1時間も待たせた。

50 Her parents **let** *her* **travel** alone. 彼女の両親は彼女の一人旅を許した。

51 I'll **have** *him* **call** you back later. 後で彼に折り返し電話させましょう。

発展 get O to do

〈get + O + to do〉で「(説得したり頼んだりして) O に…してもらう、させる」という意味。

I **got** *my friend* **to paint** my bicycle. 私は友人に自転車の塗装をしてもらった。

「(当然) …させる」関係にある have と違って、get は「(努力して) …を得る; たどり着く」の意から分かるように、「(何とか相手を説得して) …してもらう」という意味。

【!】 使役動詞を使った文を受動態にする場合は、to 不定詞を使う。

なお、let や have は通例、受動態にしない。

49' → She **was made to wait** in the café by him for an hour.

彼女は彼によってカフェで1時間も待たされた。

let O do の受動態を使いたいときは通例、be allowed to do を用いる。

→ She **was allowed to travel** alone by her parents.



質問箱 なぜ have O do で、なぜ get O to do なのか?



have は「…を持っている」という意味から派生して「(立場上) O に…させる権利を持っている」という意味を持ちます。何の努力をしなくても、すでにそういったことをさせる権利を持っている、ということです。

I'll **have** *the doctor* **call** you back. (看護師が) 先生に折り返しお電話させます。

get は「ある状態に到達させる」という意味から、到達先を表す to が必要だと考えると理解しやすいでしょう。have の時のような制約はありません。

I **got** [asked] *my teacher* **to check** the essay. [←ここで have を使うと間違い]
私は先生に作文を見てもらった。